

理事会議事録

開催日時：令和3年1月22日（金）17:30～19:30

形 式：ZOOM 会議

金子理事長が議長席に着き、理事会の開催を宣言した。
審議に先立ち議長より本日の出席者は下記の通り理事の過半数であり、
定款第13条の規定により理事会が成立することが報告された。
理事数 17名 出席者 16名
続いて下記審議が行われた。

議案1 令和2年度決算・監査報告 細山田庶務幹事
貸借対照表・正味財産増減計算書に基づき決算報告の説明があった。
資産の部では21百万円増の52百万円、負債の部では前年同水準の2百万円となり、正味財産合計は50百万円となっている。基金については旧学会の基金9百万円を一般正味財産の代替基金への振替を実施した。
経常収益については受取寄付金が第51回と第53回の総会の余剰金合計の6百万円と旧学会から収益分の9百万円があり15百万円となったが、ガイドライン印税が4百万円減少しており11百万円増の32百万円で着地した。転載許諾は8百万円あるが今後は注意をしてゆく必要がある。
・内田先生 雑収入623千円の内容は
・細山田庶務幹事 過去の論文賞の残額を計上している。

笹田監事より、業務執行状況並びに財産状況については適法であり各種書類は正しく示されている旨の監査報告がなされた。

決算報告について賛否をはかったところ承認された。

議案2 令和3年度予算 細山田庶務幹事
予算案の説明があった。
受取寄付金は前期に旧学会からの収益分9百万円が計上されたために高額となったものなので、従来水準の80万円で計上。
正会員会費は前期コロナ禍の影響を鑑み会費請求を2回としたが、今期は

従来通り 3 回実施予定であり前期予算と同額の 4 百万円で計上。

第 54 回総会開催収入は第 53 回に基づき 14 百万円と試算し収支は 2 百万円を見込んでいる。会議費はダイバーシテイ推進委員会会議費 30 万円を計上。租税公課は令和 2 年度の事業収入に対して計算されるので、法人税として 235 万円を計上。

今期予算としては経常収入 27 百万円、経常費用 25 百万円と見込んでいる。
・金子理事長 今期より総会決算を学会決算の中で計上する為、収入や費用額はともに増加しているが、収支は前期と同水準での計上となっている。

・久留先生 ガイドライン費 2 百万円の内容についての質問。

・細山田庶務幹事 ガイドライン講演会と追補版の費用を計上している。

予算案について賛否をはかったところ承認された。

議案 3 2023 年 第 56 回総会会長の選出 金子理事長

第 56 回総会会長に防衛医科大学校分子生体制御学講座の四ノ宮成祥先生の推薦があり候補者として選出された。

議案 4 令和 2 年度学会賞受賞者決定報告 金子理事長

学会賞受賞者は虎の門病院集中治療科・循環器センター内科・高齢総合診療部の桑原政成先生に決定したとの報告がなされた。

議案 5 令和 2 年度優秀論文賞受賞者決定報告 市田編集委員長

最優秀論文賞は福井大学の此下忠志先生、優秀論文賞は福井大学の大岩加奈先生に決定したとの報告がなされた。

議案 6 編集委員会報告と優秀賞について 市田編集委員長

1. 令和 2 年 J-Stage アクセス数・・・総計：355,901 月平均：29,658

2. 学会誌の将来的な IF の取得・・・取得する為には英文学会誌を持ち英文原著を年間 10 編以上 5 年間発刊する事が条件となっており学会全体の取組が必要なため理事会で検討することとなった。

・久留先生 英文原著には総説などは含まれるのか。

・内田先生 日本腎臓学会で IF 取得の為に戦略を立て長期間にわたり準備した事があるが、取得の為にハードルは高いと思う。日本透析学会ではまず英文学会誌の発行から始めている。

・市田委員長 日本語原著でも年間 10 編の発行を続けるのは当学会では

厳しい状況である。

・金子理事長 本件については慎重な意見も多いので今後審議してゆく事としたい。

3. 編集委員の改選・・堤委員と細山田委員の任期満了に伴い桑原先生と仲川先生の推薦があり承認された。

4. ガイドライン第3版英語版・・昨年3月にサプリメント(別冊号)として学会誌に公開した。

5. 編集委員会内規の変更・・学会名変更に伴う学会誌名の変更及び職務・選任方法・任期などの一部修正の説明があり承認された。

6. 優秀論文賞及び学会発表での賞設立について

①優秀論文賞などの賞金額

従来は総額50万円の範囲で運用していたが、今後(45巻掲載分の審査から)は最優秀論文賞を20万円・優秀論文賞を10万円と賞金額を明確にしたいと考えている。

・寺井先生 各賞受賞者の定員は。

・市田委員長 定員を定めずに選考委員の点数で決定する方式を継続したいと考えている。

・賞金額を明確にする件については多数の理事から賛同を得た。

②優秀論文賞(メディカルスタッフ部門)の新設

現在会員は主に医師や医療研究者で成り立っているが、メディカルスタッフ部門の方も取り込んで行きたいので、別枠での審査を行う専用の論文賞を新設し、メディカルスタッフの方々が参加しやすい環境を作りたいと考えている。

・森崎先生 論文賞を新設する事は賛成だが、時期や方法は慎重に考える方がよいのではないか。

・市田委員長 最近の学会総会ではメディカルスタッフのシンポジウムが開催され、それに併せて論文の投稿が出て来ている。この機会に更に活発化させたいので新しい論文賞を検討している。

・内田先生 以前はコメディカルという名称を使用していたが。

・市田委員長 他の学会でもメディカルスタッフという名称を使用するようになってきているので、平仄をあわせている。

・箱田先生 投稿する動機として論文賞をもらえるからと考えている人は少ないのではないか。学会に参加し発表する人を増やす事が目的であれば、学会費軽減の方が投稿者を増やすという事につながるのではないか。

・新設する方向で、さらに編集委員会で検討することとなった。

③学会発表での賞の設立

学会での優れた発表に対して副賞付きの新しい賞も検討しておりその賞の一つとしてメディカルスタッフ賞などを考えている。更に発表内容をまとめて論文として投稿してもらうという二段構えの流れで投稿を増やして行きたいと考えている。又、各論文賞には分野毎に学会功労者の名前をつけて活性化につなげたいとも考えている。

・土橋先生 以下の点について検討が必要ではないか。

- ・授賞式を最終日ではなく参加者が多い途中で行う日程を組めるか。
- ・発表内容などの審査や評価する時間などをどのように作るか。
- ・分野がまたがっているテーマなどの切り分けをどうするか。

・市田委員長 学会総会の日程などについては検討してゆくつもりで分野については申込時に本人が選択する方法を考えている。

・森崎先生 選考の手間や選考結果の説明など課題がある。新しく賞を作る事に否定的ではないが、手順や運営方式などを抜きにして審議を進めるのは無理があるのではないか。

・箱田先生 選考の為の活性化の為には賞よりも発表に対する反応や評価の方が大きいのではないか。

・谷口先生 賞ありきではなく運営方法や進め方なども含めて審査する方がよいのではないか。

・金子理事長 本件については慎重なご意見もありますが、多く先生方の賛成もあり今回は新設する方向として、手順などの具体的なやり方を編集委員会で検討の上で次回理事会にて再度審議する事としたい。

議案7 認定痛風医資格制度委員会報告 谷口委員長

1. 令和2年度認定痛風医申請は新規申請者4名、更新申請者5名あり
令和3年4月1日より認定痛風医は59名となる。

2. 第9回教育研修会は2月14日に開催し19名の参加があった。

3. 令和2年度認定痛風医試験はコロナ感染防止の点から中止とした。

4. 財団の研修会は自宅学習方式で開催され単位は従来通り7点とした。

5. 第10回教育研修会は学会総会に合わせて、2月11日～14日にオンライン開催（オンデマンド形式）にての開催予定。

認定痛風医新規申請者4名、更新申請者5名につき賛否を諮ったところ承認された。

議案 8 利益相反(COI)委員会報告 谷口委員長

1. 規約の変更

- ・学会誌名称を「痛風と尿酸・核酸」に変更
- ・第9条内の文言の変更 総務委員会を理事会に、利益相反細則検討委員会を利益相反委員会に変更

2. 編集委員会から意見を求められた件についての説明

学会誌に掲載された論文の中で著者の所属する研究所の行っている検査が有用であるという文言があったので、査読の過程で著者の合意の上でCOIありと記載した事例があり、今後このような事例があった際の対応について確認があったもの。COI委員会としては申告時点で金額が少なく直接的な利益につながらないと判断した際にはCOIなしと記載すると回答した。

- ・市田先生 編集委員会としてはCOIの判断が難しい場合については今後ともCOI委員会に判断をあおぐようにする。

議案 9 ガイドライン広報委員会報告 内田委員長

1. 今年度の広報・啓発・普及活動

- ・1月12日広報委員会を開催(11名参加)
- ・共通広報啓発活動用スライドをホームページ会員専用ページに公開
- ・ガイドライン発刊後アンケート調査を10/16~11/15にホームページで実施し62名の回収があった。3年間継続して実施するようにとのマインズの要求があるので本年も同時期に開催の予定。

2. ガイドライン中国語版発行について

全翻訳が終了し6月に2000部を58人民元(日本円900円前後)で発行する予定。

- ### 3. 今後の活動としては患者向けクリニカルクエストについての動画をホームページに掲載する事を計画している。

議案 10 ガイドライン第3版追補版の作成について 久留委員長

2022年1月頃に発刊を予定しており協力依頼の為に添付資料の依頼状を送付しているのでご協力をお願いしたい。

議案 11 ありかた委員会報告 金子理事長

1. 痛風・尿酸財団の山中理事長より11月に受検した内閣府立入検査の結果報告や研修会・研究助成の実績などの報告を受けた。
2. ダイバーシティ推進委員会の設立

連絡会などに加盟し活動している学会も多く、情報交換や知名度を上げる為にも設立を考えている。委員は金子、細山田、森崎裕子、森脇、森田、箱田の6名の先生方で、活動内容や運営方法などを今後検討して行く事としてまずは立ち上げをしたい旨の提案があり決定された。

3. 財務面の強化の対策

現在はひっ迫している状況ではないものの、今後も会員を増やして行く対応が必要との報告が細山田庶務幹事よりあった。

4. ホームページ上でのバナー広告について機能性食品会社から申し出が来ているが、他の学会でもまだ導入しておらず今後の再検討課題とした。

5. 学会員の増加策

学会の活性化の為に他職種の方にも声かけをしてゆく事で一致した。

議案 1 2 評議員の選出 金子理事長

下記3名の候補者と推薦者の発表があり、候補者として決定された。

防衛医科大学校 河村優輔先生、仁愛大学 岸慎治先生

防衛医科大学校 中山昌喜先生

議案 1 3 監事の選出 金子理事長

現在は2名の先生に監事をお願いしているが、規程では3名まで可能な為、新たに ペガサス馬場記念病院 嶺尾郁夫先生に加わって頂きたいとの申し出があり、承認された。

議案 1 4 庶務幹事報告 細山田庶務幹事

学会賞内規の第4条(2)推薦方法については自薦文言を削除し下記に修正。

「名誉会員・理事・監事・評議員に書面若しくは電磁的な方法により候補者の推薦を求める」

議案 1 5 その他

総会長2名のご挨拶

第55回日本痛風・尿酸核酸学会総会長 津谷寛先生

第54回日本痛風・尿酸核酸学会総会長 市田公美先生

閉会挨拶 金子理事長

この議事録が正確であることを証する為、理事長及び監事が記名押印する。

令和3年 1月 22日

理事長 金子 希代子 

監 事 笹田 昌孝 